

# 道徳科通信

全学年 第3号  
令和3年6月29日  
研究部

## 2年生道徳の授業を紹介します！

教材名：『小さな工場の大きな仕事』（勤労）

### ……本文より抜粋……

僕の家は、東京都大田区の羽田にある小さな工場です。父と母と兄、それに2人の職人さんが、薄暗く、油の臭いに囲まれた中で、手を真っ黒にしながら朝から晩まで働いています。僕は、（手を真っ黒にしてやすりをかけなくても、機械だけで正確な部品が作れないのかな。僕はあんな仕事はしたくない。どうせ働いたら、もっときれいな職場で、お金がもらえる、カッコいい仕事に就きたい。）と考えていました。そのため、僕は、今度の職場体験でゲームソフトの会社へ行くことに決めました。（略）

職場体験当日、家を出ようとする、僕の後ろから、「弁当作っておいたから、持っていくなだよ」という母の声が聞こえました。見ると一階の作業台の上にハンカチで包まれた弁当箱が置いてありました。僕は、大きな会社に弁当をもって行って食べることを迷いました。機械油の臭いが付いているような気がして恥ずかしく思えたからです。僕は、弁当を手にとってしばらく考えましたが、再び作業台の上に戻し、家を出ました。（略）

家に帰ると、朝の出来事をすっかり忘れていた僕は、弁当を作ってくれた母に申し訳ないことをしたと思い、「朝はごめん、弁当をもっていかなくて。」と言うと、母は、「いいんだよ」と作業をしながら、こっちを見ずに答えました。

すると、横で作業を続けていた父が、黙って何かの部品を差し出しました。その部品は、緩やかな曲線を描き、ピカピカに磨かれていました。（なんの部品だろう？）と僕が見ていると「それは、人工衛星を宇宙へ打ち上げるロケットの部品さ（略）」

「そんなすごいものが、なんでうちの工場にあるの？」

「それはうちの工場がすごいからだよ。コンピュータや機械だけでは、この部品は作れないんだ。うちの親父はこの仕事のプロで、百分の一ミリまで正確に磨くことができるんだぞ」しばらくして、普段は無口な父が、つぶやくように言いました。

「俺はなあ、中学を卒業して、すぐに工場で働き始めた。今の時代と違ってなあ、高校へ行きたいとか、あの仕事に就きたいとか、そんなことを言える環境ではなかった。毎日、毎日、鉄を磨いて思い通りの部品が作れるようになるまで20年ぐらいかかった。でもな、この手で作ったものが、世の中の役に立つっていうのは、うれしいものだぞ」長年見慣れた父の姿でしたが、今日の父はいつもと違って見えました。油のしみ込んだ黒い手が、誇らしく見えました。



### どうせ働いたら…？

- 楽がいい
- 楽しい方がいい
- お金をいっぱいもらいたい
- やりたいことをやりたい
- 一生懸命やりたい
- やりがいのある事をしたい
- 家から近い方がいい
- 人間関係がいい職場がいい

### 「誇らしい仕事」とはどんな仕事だろうか？

- 人を笑顔にする仕事
- カッコいい仕事
- 誰かを助ける仕事
- 夢や希望の仕事
- 自分にしかできない仕事
- 自信につながる仕事
- やりがいのある仕事



### 「誇れる」というのは誰に対して誇れるのだろうか

「人の役に立つ事や誰かを助ける事は、他人(ひと)に対してかね？」  
「アイドルとかは自分にも他人にも誇れる仕事だよね。憧れとかあるし」  
「本当に胸を張って自分のやりたいことができるなら、自分にも他人にも誇れるよね」

### 今回の授業を踏まえて、どんな職場体験にしていきたいか

- 職場体験では、自分に対する誇り、他人に対する誇り、両方に対する誇りなどひとつでも多く見つけて帰ってきたい。
- 職場体験では、人の役に立ち、やりがいを感じられるようにしたい。
- 自分なりに一生懸命働いて、その中で誇りを見つけていきたい。